

『いばらきカミキリみつけ隊』活動報告



茨城県では、今年度、外来カミキリを見つけ、駆除してもらおうという活動として『いばらきカミキリみつけ隊』を募集しました。対象は、外来カミキリの発生が確認された市町の小学生以上の県民の皆様です。

駆除活動を行った対象者に対しては、奨励金にあたるプリペイドカードや缶バッジ・エコバッグなどの限定グッズを贈呈いたしました。

希望のあった小学校にはセンター職員が出前講座をおこない、外来生物やカミキリの話をしました。6月から9月までの活動の結果、数多くの外来カミキリを駆除できました。ご協力ありがとうございました。

12市町+多様性センター 2024年9月30日現在

捕殺数 (外来種のみ)	持ち込み人数 (延べ人数)
3782匹	230人



エコバッグと缶バッジ

出前講座のようす



古河市立駒込小学校



下妻市立大形小学校



茨城県生物多様性センター

水戸市笠原町 978-6
茨城県庁行政棟 14 階
TEL：029-301-2940

樹木を食い荒らし枯らす 特定外来生物クビアカツヤカミキリ、ツヤハダゴマダラカミキリ



ツヤハダゴマダラカミキリ
体長 2.0~3.5cm



クビアカツヤカミキリ
体長 2.5~4.0cm



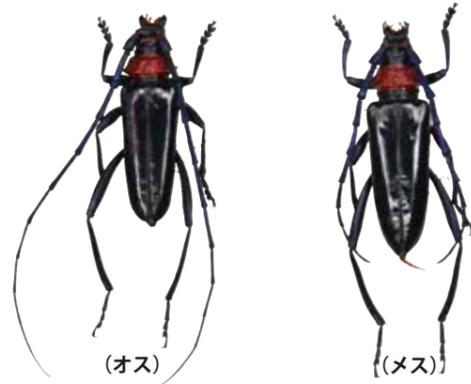
とくていがいらいせいぶつ
特定外来生物のカミキリムシ、クビアカツヤカミキリとツヤハダゴマダラカミキリが茨城県に入り込んで街路樹や公園の木を枯らしながら周囲に広がっています。これらの虫や被害にあっている木を見つけて駆除するのに協力してください。

特定外来生物とは

海外から持ち込まれ、生態系や、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物として、外来生物法に基づき国が指定するものであり、飼育・栽培・運搬・保管・輸入・販売・野外に放つなどの行為が原則禁止されています。

クビアカツヤカミキリ

形態	体長 2.5～4cm 体色は光沢のある黒色、前胸部は赤色 国内に似た大きさ体色のカミキリムシはいません。
発生時期	成虫は5月中旬～8月に羽化。幼虫は2～3年木の中で生活
被害樹種	サクラ、モモ、ウメなど
発生市町	2019年古河市で発見、五霞町、つくば市でも被害が確認されました。



クビアカツヤカミキリを見つけるには

5月中旬～8月頃に、サクラ、モモ、の樹木を見回り成虫を見つめます。
幼虫はフラスを確認します。「フラス」とは、幼虫が樹木に開けた穴から出したフンと木くずの混ざった排出物です。これがサクラやモモの根元にあったら要注意です。



被害木のネット巻

クビアカツヤカミキリのフラス
かりんとうのような形で、中に
カンナで削ったような薄い切片が
見られます。

駆除について

成虫はその場で駆除します。

幼虫は、薬剤注入、伐採後焼却となります。幹をネット巻した場合も順次見回りし、出て来た成虫をすぐに駆除することが大切です。

ツヤハダゴマダラカミキリ

形態	体長 2.0～3.5cm 体色は黒色で翅に約20個の白斑があります。 在来種のゴマダラカミキリと似ているため注意が必要です。
発生時期	成虫は5月～10月に羽化。幼虫は1～2年木の中で生活
被害樹種	セイヨウトチノキ、アキニレ、リンゴ属、サクラ属、ナシ属、バラ属、 ネムノキ、ハリエンジュ、トネリコ、ヤナギ属、カツラ属など多種。
発生市町	2021年つくば市で発見、古河市、水戸市など広い地域で確認されています。



茨城県では、アキニレ、トチノキ属、カツラなどの街路樹や公園木その他、河川敷のヤナギ類など野生木に被害が発生しています。



ツヤハダゴマダラカミキリを見つけるには

5月～10月頃に、被害木を見回り成虫を見つめます。被害木は木の上部に脱出孔又は産卵痕(直径10～20mm)があります



脱出孔



産卵孔

在来種ゴマダラカミキリとの区別に注意



ツヤハダゴマダラカミキリ

前胸背 (ぜんきょうはい)	白斑なし	あり
上翅 (じょうし) 基部 (きぶ)	顆粒状突起・白斑なし	あり
小楯板 (しょうじゅんばん)	白色毛なし	白色毛



ゴマダラカミキリ (在来種)

駆除について

成虫はクビアカツヤカミキリと同じで、成虫は見つけてその場で駆除します。

幼虫は、薬剤注入、伐採後焼却となります。上部から被害を受けることが多いので、落枝等による被害を防ぐためにも早めの処理が必要です。